

おかげさまで 30 周年

30

since 1990.7

2020 春日部市郷土資料館
KASUKABE HISTORY MUSEUM



これまでもこれからもすべての人が輝くまちに
—春日部市 15 周年

1960年代の春日部

1963 武里団地 1964 東京オリンピック 1967 埼玉国体

春日部市郷土資料館

あいさつ

春日部市では現在、「春日部駅付近連続立体交差事業と中心市街地まちづくり整備事業」や「東埼玉道路建設促進事業と赤沼・銚子口地区産業基盤整備事業」、「北春日部駅周辺地区の土地区画整理事業」、「複合型子育て支援施設整備事業」、「新本庁舎整備事業」と、大規模な事業が並行して進められ、大きくまちが変わろうとしています。

今から60年ほど前、1960年代には、東京オリンピックや埼玉国体が開催されました。市内では、高度経済成長の波に乗って、武里団地の建設や、春日部駅西口の開発が進められるなど、現在の春日部市につながる大きな事業や、各種施設の建設が進められました。

本書では、皆様からご寄贈、ご寄託をいただきました郷土資料館所蔵の1960年代の資料や写真を中心に、まちのうつりかわりを紹介します。現在の礎を築いた60年前の春日部について、ご理解を深めていただければ幸いです。

末筆ながら、本書の作成にあたりご協力いただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

2020（令和2）年8月 春日部市教育委員会教育長 鎌田 亨

目次

1. 1963年武里団地の建設・・・1
2. 1964年東京オリンピック・・・6
3. 1967年埼玉国体・・・8
4. 1960年代の春日部・・・11



郷土資料館案内人 うめわかくん

本書の発行、関連展示の開催にあたり、下記の方々、機関にご協力をいただきました。記して感謝いたします。

会田初男 石川成道（妙楽院） 大木正美 沖村国男 折原嘉一郎 近藤倬司 齊藤文誉
 佐藤雅子 佐野進 高野満智子 高橋勇市 平嶋成行 細井新一 山口久代
 埼玉県立文書館 東武博物館 独立行政法人都市再生機構（敬称略・物故者含む）

凡例

1. 本書は、1960年代、特に高度経済成長期に関わる春日部市郷土資料館収蔵品を紹介するものである。
2. 本書に関連する展示として、下記を開催する。
 第62回夏季企画展示 収蔵品展 17 春日部の宝もの17
 「1960年代の春日部ー1963武里団地 1964東京オリンピック 1967埼玉国体」
 2020（令和2）年8月4日（火）～9月13日（日）
3. 掲載資料は、断りのないものはすべて春日部市郷土資料館収蔵資料である。
4. 2005（平成17）年の市町合併前の自治体について、記述上必要な場合は「旧春日部市」、「旧庄和町」の表記を用いた。

表紙写真 1969年8月15日の春日部駅西口（『西部第一土地区画整理完工』（記念誌）1970より）

1960年代お父さんのお財布事情

		歯みがき粉 (90g) 1965年 94円 歯ブラシ 1965年 50円 クリーニング (Yシャツ) 1965年 60円 床屋 1965年 330円	
食パン (1斤) 1965年 98円 牛乳 (200ml) 1965年 20円 バター (200g) 1965年 180円		電車運賃 (初乗り) 1962年 10円 電車運賃 (春日部から北千住) 1962年 90円 電車定期券 (春日部から北千住、6ヶ月) 1962年 4,480円	バス (初乗り) 1965年 15円
	もりそば 1964年 50円	給料 1965年 46,014円 団地の家賃 (武里団地、2DK) 1966年 9,300円	
		ビール (350ml) 1964年 115円	

参考 伊藤・新田 2005 森永 2008 イラスト 石倉慶子

参考文献

- 日本住宅公団 1965 『日本住宅公団年報'64』
 日本住宅公団 1967 『日本住宅公団年報'66・7』
 埼玉県 1991 『新編埼玉県史 通史編7 現代』
 春日部市教育委員会 1995 『春日部市史 通史編II』
 春日部市教育委員会 1998 『図録 春日部市の歴史 - 春日部市史普及版』
 伊藤正直 新田太郎 監修 2005 『ビジュアル Nippon 昭和の時代 高度経済成長期から現在まで、50年間の軌跡』 小学館
 森永卓郎監修 2008 『物価の文化史事典 明治・大正・昭和・平成』 展望社
 春日部市教育委員会 2016 『新編 図録 春日部の歴史』
 東京都教育委員会 2017 『オリンピック・パラリンピック学習読本 高等学校編』
 照井啓太 2018 『日本懐かし団地大全』 辰巳出版株式会社
 公益財団法人日本オリンピック委員会サイト「大会別日本代表選手入賞者一覧」
<https://www.joc.or.jp/games/olympic/winnerslist/summer/018.html>

1960年代の春日部ー1963武里団地 1964東京オリンピック 1967埼玉国体

編集・発行 春日部市郷土資料館 春日部市粕壁東3-2-15 (048) 763-2455
 印刷 文明堂印刷株式会社 春日部市谷原1-17-13
 発行日 2020（令和2）年8月4日（9月15日、12月1・16日PDF版修正）

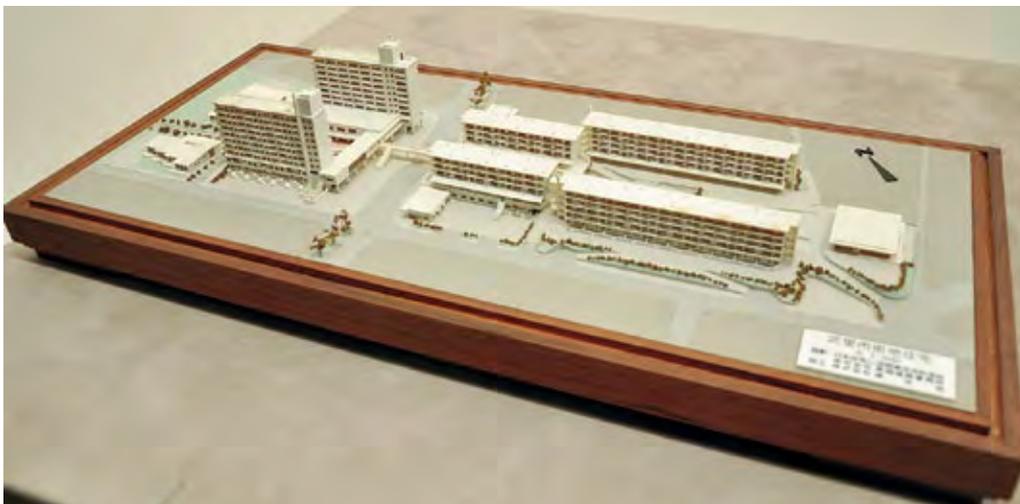


1. 1963年武里団地の建設

1955（昭和30）年に誕生した日本住宅公団（現独立行政法人 都市再生機構）は、埼玉県内にも次々と団地を建設し、1956（昭和31）年に西本郷団地（さいたま市北区・332戸）、1957年に鶴瀬団地（富士見市・1,301戸）、1958年に東鳩ヶ谷団地（川口市・500戸）、1959年に戸田団地（戸田市・440戸）、新所沢団地（所沢市・2,455戸）、霞ヶ丘団地（ふじみ野市・1,793戸）、1960年に東朝霞団地（朝霞市・435戸）、草加団地（草加市・410戸）、上野台団地（ふじみ野市・2,080戸）、1962年に南浦和団地（さいたま市南区・1,253戸）、草加松原団地（草加市・5,926戸）、1965年に田島団地（さいたま市桜区・1,906戸）の入居が開始されました。

武里団地は、1963（昭和38）年に準備工事が始まり、1964（昭和39）年7月には、国道4号からの資材搬入路が整備され、旧庄和町域、江戸川近辺の台地上から、約100万㎡の土（「広報かすかべ」による）が搬入され埋め立てが行われました。本体工事は1965（昭和40）年2月1日の起工式を経て急ピッチで進められ、1966（昭和41）年4月には、1～4街区2,424戸の入居が開始されました。入居開始後も工事は続き、1968（昭和43）年、10階建て2棟、4、5階建て約180棟、9街区、総戸数6,119戸からなるマンモス団地が完成しました。6,119戸のうち、5,559戸は賃貸、5街区の560戸は「特別分譲」として分譲されました。団地内には、住宅のほかに銀行や郵便局、産婦人科と小児科を備えた市立病院武里診療所、スーパー、各種商店、市役所出張所、また、急増した子どもたちのための保育所や幼稚園、小学校が整備されました。居室内の設備は、排水トラップやガス風呂、水洗トイレなど当時の最先端のものがそろえられ、入居者に配布された『公団住宅の住いのしおり』には、事細かに使用方法や注意書きが掲載されています。自治会活動も盛んに行われ、小学校や病院の問題など、生活に身近な話題が自治会広報『たけさと』に掲載されました。

学校は、団地内に最初に創立された大畑小学校（1966・昭和41年）のほか、大場小学校（1968・昭和43年）、谷中小学校（1971・昭和46年）、沼端小学校（1976・昭和51年）、また谷原中学校（1975・昭和50年）、中野中学校（1978・昭和53年）が造られました。大畑、大場、谷中、沼端の各小学校は2003（平成15）年に閉校し、大畑小学校の跡地に武里南小学校、大場小学校の跡地に武里西小学校がそれぞれ開校しました。また谷原、中野中学校も、2019（平成31）年に閉校し、同年4月に中野中学校の跡地に、春日部南中学校が開校しました。



武里団地（2街区・7街区）模型



武里団地資材搬入道路（1964年）



武里団地造成工事（1964年）



武里団地起工式（1965年）



武里団地建設風景（1965年）



市立病院武里診療所（1966年）



第一保育所（武里団地・1966年）



武里団地商店街（1968年）



武里団地スノーケル車の救出訓練（1970年）



市役所武里出張所（1969年）



建設中の武里駅通路（1969年）



大畑小学校増築工事（1969年）



谷中小学校建設工事（1970年）



第一保育所（武里団地・1969年）





大畑小学校入学式（1969年）



大畑小学校プール（1968年）



大場小学校運動風景（1970年）



大畑小学校での少年野球試合（1973年）



武里団地公園（1971年）



武里団地運動会（1973年）



水路で遊ぶ子ども（1970年）



武里団地通勤風景（1971年）



武里団地7街区10階建てから北（1969年）



武里団地交通安全運動（1970年）



武里団地7街区10階建てから南（1969年）



武里団地入居ご案内



公団住宅の住いのしおり



たけさと 33号特別号
(1968年2月・武里団地自治会会報)

武里駅発車時刻表 (上り浅草方面)

時	23	42	55	15	8	25	45
5	23	42	55	15	8	25	45
6	12	20	32	④	42	53	⑤A
7	7	15	23	②B	35	③B	52
8	19	33	44	17	18	26	38
9	3	11	17	44	55	18	1
10	⑥	12	22	46	55	16	27
11	13	36	59	20	8	15	39
12	20	45	59	21	2	17	33
13	20	32	56	22	6	36	
14	21	44		23	5	44	
				24			

武里駅時刻表（1966年ごろ）

2. 1964 年東京オリンピック

1964（昭和 39）年、第 18 回オリンピックが会場をアジア初の東京とし、開催されました。10 月 10 日から 24 日までの 15 日間、93 の国と地域から 5,000 人以上の選手の参加がありました。ウエイトリフティングの三宅義信を皮切りに、レスリングの吉田義勝、上武洋次郎、渡辺長武^{おさむ}、花原勉^{たけひで}、市口政光、体操は男子団体総合と個人では遠藤幸雄、早田卓次、山下治広、柔道の中谷雄英、岡野功、猪熊功、ボクシングバンタム級の桜井孝雄、また「東洋の魔女」の異名をもつバレーボール女子チームは、1962（昭和 37）年の世界選手権につづき東京オリンピックでもソビエト社会主義共和国連邦（現ロシアほか）を決勝で破り、日本勢は合計 16 個の金メダルを獲得しました。外国の選手では、エチオピアのアベベ・ビキラがオリンピックのマラソン 2 連覇を達成、女子体操のチェコスロバキア（当時）、ベラ・チャスラフスカ、陸上男子 100m のボブ・ヘイズ（アメリカ）、男子 10,000m のビリー・ミルズ（アメリカ）、ボクシングヘビー級のジョー・フレイザー（アメリカ）などが活躍し、会場を沸かせました。

1964 年当時、後に市立春日部中学校校長や庄和町教育長をつとめる故関根幸夫さんが顧問であった県立春日部高校の陸上部では、多くの有力な選手が育ちました。後藤秀夫さん（葛飾中学校出身）は、1964 年に五種競技で活躍し、オリンピック聖火リレー最終日、8 人いる走者の第三走者に選ばれ、三宅坂から参議院議員宿舎（東京都千代田区）までの 640 m を走りました。大木正美さん（葛飾中学校出身）は、「オリンピック東京大会記念」と冠され大宮公園陸上競技場及び双輪場（大宮競輪場）で行われた 1964 年の県民体育祭、110m ハードルで高校生全国記録タイの 14 秒 6 を出し優勝しました。

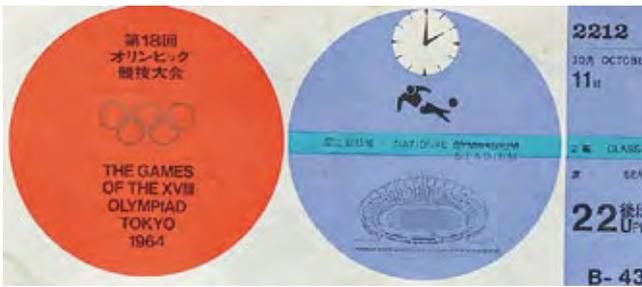
郷土資料館では、1964 年東京オリンピックの競技役員であった方や観戦された方からいただいた記念品、チケットなどゆかりの品を所蔵しています。



大木正美さん賞状 オリンピック東京大会記念県民体育祭（個人蔵・1964年）



オリンピック聖火リレー出走後、葛飾中学校体育祭に招かれた後藤秀夫さん（広報しょうわ 1964年 10月号）



オリンピックのチケット (サッカー)



オリンピック記念乗車券



オリンピック東京大会寄附金付記念切手



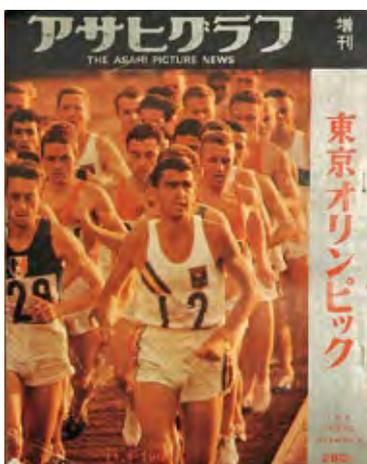
第18回東京オリンピックスクラップブック
粕壁小学校の当時の児童が新聞の切り抜きを集めて作成したもの



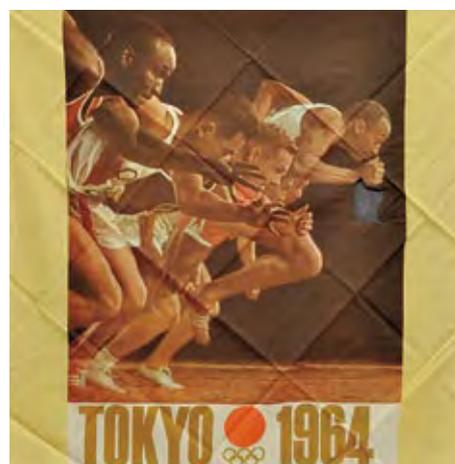
EPレコードマーチビッグ5東京オリンピックより(文化放送制作テイチクレコード)



LPレコードオリンピック東京大会1964 (NHK放送)



アサヒグラフ増刊東京オリンピック
1964年11月号(朝日新聞社)



東京オリンピック記念風呂敷

3. 1967 年埼玉国体

1967（昭和 42）年、第 22 回国民体育大会は、冬季大会のスケートが栃木県、スキーが青森県、夏季大会の水泳は埼玉県川口市、そして秋季大会 27 種目が埼玉県内 27 市町村を会場とし行われました。埼玉県内では国体に合わせて 25 の競技施設が新設されました。

大会は、県内各地を旗リレーが回った後、1967（昭和 42）年 10 月 22 日、新設の県営上尾運動公園陸上競技場で開会式が行われ、旧春日部市では、同年に新設された大沼運動公園グラウンドが女子ソフトボールの会場となりました。10 月 23 日には昭和天皇・皇后が試合を観覧し、26 日までの間、高校女子 24 チーム、一般女子 10 チームが試合を行い、高校女子は大分県代表の大分県立大分東高校、一般女子は岐阜県代表のニチポー垂井（ニチポーは現ユニチカ株式会社）が優勝しました。

東中野で出身の故鈴木文一さんは、1967 年埼玉国体の審判員として、上尾陸上競技場で陸上競技の審判員をつとめられました。その際の審判員服一式や N.R.R（日本陸上競技連盟の当時の略称）の審判員証などをご親族の方よりご寄贈いただきました。

国体は 2004（平成 16）年の第 59 回大会も埼玉県を会場として行われ、この時は合併前の旧春日部市で卓球（ウイングハット春日部）と軟式野球（牛島球場）、旧庄和町で軟式野球（庄和球場）が行われました。



埼玉国体ソフトボールガイドブック
(1967年)



N.R.R 公認審判員証



埼玉国体審判員服一式



埼玉国体大沼運動公園グラウンド昭和天皇・皇后観覧 (1967年10月23日)



建設中の大沼運動公園グラウンド (1967年)



埼玉国体旗リレー (立野・1967年)



埼玉国体女子ソフトボール (1967年10月23日)



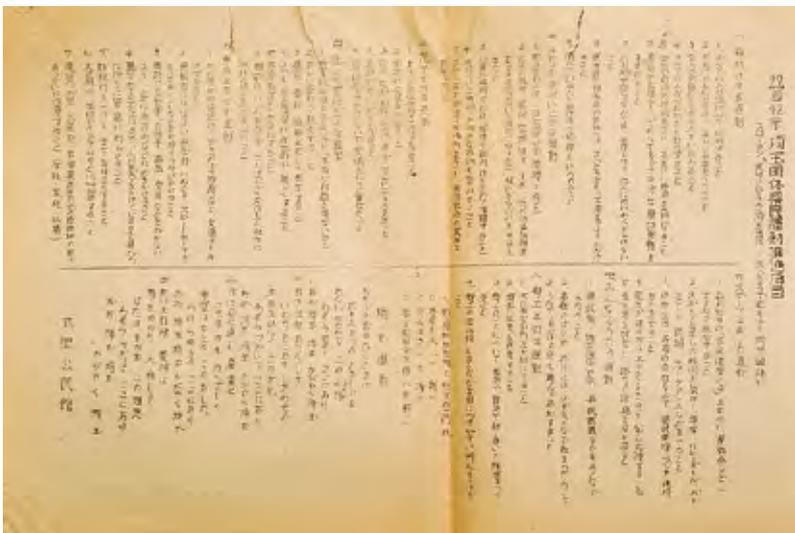
大風「歓迎」「国体」(1967年5月)



埼玉国体歓迎提灯吊り下げ風景（内出町） 埼玉国体歓迎提灯



1967年 埼玉国体大会旗



国体県民運動推進項目（武里公民館）



全日本教員ソフトボール大会(1965年)ポスター 国体のリハーサル大会として開催



春日部市役所庄内広報（1967年6月10日）



国体まで134日の看板(1967年) 庄内広報で看板を設置したことが報じられている

4. 1960年代の春日部

春日部駅西口の開発は、1964(昭和39)年に春日部市西部第一土地区画整理組合の設立をもって開始され、大沼運動公園グラウンドの完成(1967・昭和42年)で勢いづきました。西部第二土地区画整理(1966・昭和41年～)、春日部市立病院(1969・昭和44年)、春日部市役所新庁舎(1971・昭和46年)など、この時期、西口は公共施設や住宅が次々と建設され一気に都市化が進みました。春日部駅の西口は1971(昭和46)年に開設されました。

北春日部駅建設と地下鉄日比谷線への伊勢崎線の乗入れ、埼玉清掃組合の開業(1966・昭和41年)、国道16号バイパス(岩槻・春日部間)の開通(1967・昭和42年)、消防署新庁舎の完成、市立図書館の開館(浦和地方法務局春日部出張所跡、1968・昭和43年)、第三保育所(八木崎)の開所(1969・昭和44年)、内牧工業団地の完成(1971・昭和46年)などもこの時期のできごとです。

庄和地域では、1960(昭和35)年に杉戸町倉常、芦橋、木崎の庄和村編入、1964(昭和39)年には町制が施行され、庄和町が誕生しました。1965(昭和40)年に制定された国の「市町村の合併の特例に関する法律」を受けて、1966(昭和41)年には、旧春日部市と旧庄和町で合併の動きがありましたが、この時は実現はしませんでした。

春日部地区(旧春日部市域)の人口は1960(昭和35)年34,280人、人口密度904人であったものが、1970(昭和45)年に84,919人、人口密度2,241人と10年で2倍以上増加しました。



春日部駅 (1960年)



大沼幹線道路(西口駅前通り)の起工式(1965年)



工事中の西口駅前通り第2期工事(1971年)



春日部駅西口開設工事(1971年)



建設中の消防署新庁舎（現東分署・1968年）



消防署新庁舎（1968年）



市立図書館移転（現まちなみ公園・1971年）



第三保育所（八木崎）開所（1969年）



西部第二土地区画整理事業 市役所通り（1969年）



春日部市立病院（1969年）



都市計画市街化区域に関する公聴会（1970年2月24日）



建設中の北春日部駅（1966年）



埼玉清掃組合開業（1966年）



藤塚橋開通（1965年）



調整区域看板（1970年）



春日部電報電話局（1960年）



庄和地区有線放送交換手（1964年ごろ）



母子健康センター（現庄和保健センター・1965年撮影）



七つの合同お祝い式（幸松小学校体育館・1967年）



春日部中学校卒業式（1969年）



国道16号バイパス建設工事（1966年）



国道16号バイパス梅田陸橋建設工事（1966年）



国道16号バイパス南中曽根交差点（1969年）



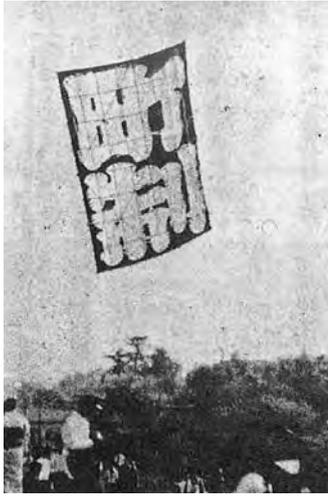
内牧工業団地（1969年）



春日部東部市場（1970年）



交通公園（現中央町第4公園・1971年）



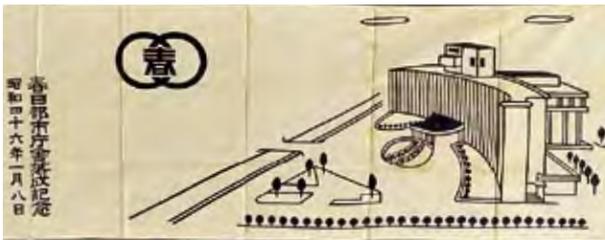
庄和町制施行を記念した大凧 (1964年)



大凧あげ祭り送迎のバス (1967年)



建設中の春日部市役所 (1970年)



春日部市役所落成記念手ぬぐい



広報かすかべ新庁舎落成記念特集号 (1971年)



市庁舎に掲げていた旧市章

1960年～1971年の春日部のできごと

1960 昭和 35 年

- 6・1 母子健康センター開所（庄）
- 6・1 2 電報電話局がダイヤル式電話を開通（春）
- 1 1・1 簡易水道の給水開始（庄）
- 1 1・3 倉常・芦橋・木崎が庄和村編入（庄）

1961 昭和 36 年

- 1 関東ガスが市内に都市ガスの供給を開始（春）
- 5・1 0 消防署を市役所内に設置（春）
- 7 庄和村が埼玉火葬場組合の構成村となる（庄）

1962 昭和 37 年

- 4・1 幸松中と豊野中合併、東中学校が創立（春）
- 6・2 0 交通安全都市宣言（春）
- 8・1 春日部市開発公社設立（春）
- 8・2 0 北部浄水場の配水池が完成（春）

1963 昭和 38 年

- 4 上水道事業開始（庄）
- 8・1 消防本部・消防署を仮消防庁舎に設置（春）
- 8・1 5 埼玉清掃組合設立（春・庄）
- 1 2 庄和村開発公社設立（庄）

1964 昭和 39 年

- 1・2 0 粕壁を除く 5 地区で移動保育所開始（春）
- 3・1 6 春日部都市計画用途地域指定（春）
- 4・1 埼玉県立春日部工業高等学校開設（春）
- 4・1 町制施行（県内で 36 番目）庄和町誕生（庄）
- 7・5 南部浄水場配水池完成（春）
- 8・1 有線放送電話が農業協同組合により開始（庄）
- 9・2 8 庄和都市計画区域変更（庄）
- 1 1・6 西部第一土地区画整理組合の設立認可（春）

1965 昭和 40 年

- 2・1 庄和町農業協同組合発足（庄）
- 4・1 春日部市農業協同組合発足（春）
- 5・5 藤塚橋架替（春）

1966 昭和 41 年

- 3 埼玉清掃組合ごみ焼却施設・し尿処理施設完成（春）
- 3・2 2 庄和都市計画道路決定（庄）
- 4・1 春日部市役所武里出張所開所（春）
- 4・1 武里団地第一次入居開始（春）
- 4・1 大畑小学校、武里中学校大畑分校創立（春）
- 5・1 武里診療所開設（春）
- 5・2 第一保育所（武里団地）開所（春）
- 9・1 北春日部駅開業、日比谷線乗入開始（春）
- 1 2・2 8 庄和都市計画用途地域指定（庄）

1967 昭和 42 年

- 4・5 国道 16 号バイパス（岩槻・春日部間）開通（春）
- 5・2 2 大沼運動公園グラウンド完成（春）
- 6・1 4 武里中学校、薄谷に移転開校、大畑分校廃校
- 1 0・2 3 第 22 回国民体育大会秋季国体（埼玉国体）、大沼運動公園グラウンドで女子ソフトボール競技会開催（～ 26 日）（春）
- 1 2・1 7 西部第二土地区画整理事業の起工式挙行政（春）

1968 昭和 43 年

- 3・1 市立図書館（浦和地方法務局春日部出張所跡）開館（春）
- 4・1 大場小学校創立（春）
- 8 第二保育所（武里団地）開所（春）
- 1 1・8 消防本部・消防署新庁舎開庁（春）
- 1 2 新川橋架替（春・庄）

1969 昭和 44 年

- 1・1 6 市立病院新病棟で診療を開始（春）
- 4・1 武里駅橋上通路開通（春）
- 5・2 0 埼玉県庄和都市計画区域変更（庄）
- 7・1 第三保育所（八木崎）開所（春）

1970 昭和 45 年

- 8・2 5 都市計画市街化区域及び市街化調整区域決定（春・庄）
- 8・3 1 東部浄水場完成（春）
- 1 1・1 2 春日部東部市場開場（春）

1971 昭和 46 年

- 1・1 市民憲章制定（春）
- 1・1 8 春日部市役所新庁舎で業務開始（春）
- 2・1 粕壁、内牧、豊春、武里、幸松、豊野に地区公民館設立（春）
- 2・1 5 春日部郵便局が新局舎で業務開始（春）
- 2・2 4 春日部内牧工業団地完成式（工事記念碑除幕式）挙行政（春）
- 4・1 谷中小学校創立（春）
- 4・5 第四保育所（備後）開所（春）
- 6・1 勤労婦人ホーム市立病院跡に開所（定期講座を開講）（春）
- 6・1 0 旧市役所跡に市立図書館移転（春）
- 7・2 0 児童交通公園開園（春）
- 8・2 0 庄和郵便局・宝珠花郵便局の電気通信業務が廃止され、春日部電報電話局に引継。庄和電話交換局・宝珠花電話交換局がダイヤル式電話開通（庄）
- 1 2・1 春日部駅西口が開設される（春）

*（春）は旧春日部市、（庄）は旧庄和町のできごとを示す。